

ます 校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和8年度 東中だより 第8号	発行日	令和8年8月28日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【2学期始業式校長講話】

みなさん、おはようございます。この夏、熊本地震や豪雨により多くの方が被害に遭われました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々への哀悼の意を表します。また、自分たちにできる支えや備えについては、しっかりと考えていきましょう。

さて、今年の夏も猛暑日が続きました。まだまだ暑い日が続いていますので、熱中症対策については十分な対策を心掛けてください。また、これからの時期、突然のゲリラ豪雨や雷、台風、河川の氾濫、校外や家庭において地震が発生した時の対応など、学んだことを生かし、自分の身は自分で守ることを考え、行動に移していきましょう。

今日は2つのことについて話をします。

1つ目は、私はこれまで何度も「何事にも挑戦することの大切さ」について話してきました。その言葉をみなさんに伝えるだけでなく、自分自身も実践してみようと思い、この夏、人生で初めて富士山登山に挑戦しました。還暦を過ぎた今でも私はまだまだ学びの途中だと考えています。人として成長する道のりに終わりはなく、今もなお修行の身だと感じています。



富士山の登山道を歩きながら、目の前に広がる雄大な山々を眺めていると、「人間はいくつになっても成長できる」「いつまでも新たな学びを続けることができる」という思いが自然と湧いてきました。高くそびえる山の頂を見上げるたびに、その思いは益々強くなりました。しかし、登山は決して楽なものではありませんでした。登りはもちろん大変でしたが、特に下山のときには足がけいれんし、思うように歩けなくなりました。ツアーのみなさんが遠く先に見え、自分だけが取り残されているように感じる場面もありました。それでも、休みながら一歩ずつ前に進み、最後は自分の足で無事に下山することができました。

そのとき私は、人生も登山と同じだと改めて感じました。順調に進めるときばかりではありません。苦しいときやつらいとき、周りの人が自分より先に進んでいるように感じることもあります。しかし、あきらめずに一歩ずつ進み続ければ、必ず前へ進むことができます。

私は、本当の老いは年齢によって決まるのではなく、挑戦することをやめたとき、目標や夢を失ったときに訪れるのだと思っています。反対に、夢や目標を持ち、新しいことに挑戦し続ける人は、いくつになっても若々しく、輝き続けることができます。だからこそ、みなさんにも自分の可能性を信じて、さまざまなことに挑戦してほしいと思います。勉強でも、趣味でも、習いごとでもかまいません。大切な

は、失敗を恐れずに勇気を出して最初の一步を踏み出すことです。その一步一步の積み重ねが、みなさんを大きく成長させ、未来への道を切り開いてくれます。

私も校長として、これからも挑戦する心を忘れず、みなさんとともに学び、ともに成長していきたいと思います。みなさんも、それぞれの「富士山」に向かって、今学期もまた一步を踏み出してください。

2つ目は、今年の夏も、野球やバレーボールなど様々なスポーツから感動と新たな学びを得ることができました。その中でも、4年に1度のサッカーワールドカップ北中米3か国大会は、大変な盛り上がりを見せました。私は改めて、サッカーが世界中の人々を魅了するスポーツであることを実感しました。日本代表は決勝トーナメント1回戦でブラジルに敗れました。しかし、その戦いぶりからは、日本サッカーの着実な成長を感じることができました。大会前から主力選手の離脱が相次ぎ、さらに一次リーグ初戦で負傷した久保選手も最後まで復帰することができませんでした。そのような厳しい状況の中でも、日本代表は世界の強豪を相手に堂々と戦い、多くの人々に勇気と感動を与えてくれました。



この成長の背景には、日本サッカー協会が長い時間をかけて積み上げてきた中長期的なビジョンがあると思います。世界のトップリーグで日本人選手が活躍できる環境を整え、Jリーグを中心とした育成システムを発展させてきました。その結果、技術だけでなく、戦術やフィジカル、そして精神面においても大きくレベルアップしています。私は、近い将来、日本がワールドカップ優勝を本気で争う日が必ずやってくると信じています。

そして、世界の頂点を目指すために大切なことの 하나가、「自分ならできる」「自分たちならできる」という自己肯定感ではないかと思っています。もちろん、その前提には地道な努力と十分な準備があります。しかし、最後は「世界一になれる」と自分自身を信じる力が必要です。これはスポーツに限ったことではありません。勉強でも学校行事でも習いごとでも「どうせ無理だ」と考えるのではなく、「できるようになるために何をすればよいか」と前向きに考えることが、成長につながるのだと思います。



今回のワールドカップで特に印象に残ったのは、森保一監督の姿です。監督は試合が終わるたびに、応援してくれた人たちへの感謝の言葉を述べていました。大きな重圧のかかる大会の中であっても、自分たちを支えてくれる人への感謝を決して忘れない。その姿に私は深く感銘を受けました。どれほど優れた能力を持っていても、一人では成し遂げられないことがあります。周囲への感謝の気持ちを持ち続けることが、人としての成長につながるのだと改めて感じました。

生徒の皆さんも、自分の可能性を信じ、目標に向かって努力を続けてください。そして、その挑戦を支えてくれる家族や友人、先生方への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。夢を持つこと、努力を続けること、自分を信じること、そして感謝を忘れないこと。これらを大切にしながら、2学期も確かな目標に向かって、「元気に登校し、笑顔で下校する」ことのできる楽しく、最幸な学校生活にいきましょう。